

## ” 広島平和行事参加の旅 ”

70代 女性

やっと念願かなった広島訪問。到着後すぐに向かった爆心地（島外科上空六百米上空）では複雑な気持を抑えがたくもすぐ原爆資料館へ向う。テレビ、新聞では見馴れていた状況ではあったが、実際に訪れてみてあの広大な広島在市街地が一瞬にして建物、人間がこんなになるものなのか？いかなる理由があろうと許されるものではない！ 人間のムゴさに今更乍ら情けなく、後世に言い伝えねばと心に誓う。翌日の式典参加は岩国からの移動で会場に着席したのは開始直前の八時頃であったが、担当者の職員の方が朝五時には我々の席を確保して下さったお陰で前列より5～6番目に着席することが出来、挨拶者の顔もはっきり見える位置どりで感謝感激。八月五日六日という暑いさ中、覚悟はしていたが、紫外線予防の黒い帽子は汗の結晶で白く浮上っていた。小金井着は夜遅くなっていたが疲れた身体を風呂につかり、オリンピックの様子を見ようとテレビをつける。八月六日ということでNHKスペシャル「決断なき原爆投下、” 未公開テープが明かす衝撃の事実 : 米大統領と軍の知られざる攻防 ” という貴重な番組に五十五分間、テレビに見入り、前日とこの日の広島の様子が重なり特別な想いが脳裏をかすめ、複雑な想いの八月六日の夜であった。

## 小金井市平和の推進事業に参加して

50代 男性

私は 55 歳の節目の年に、今までの自身を振り返り、日本の平和について考えたく、市が実施している広島平和記念式典参加事業に応募しました。

式典前日、原爆ドームと資料館を見学しました。被ばく当時の悲惨な事実を真近にし、改めて今の日本の平和のありがたさを痛感しました。

戦争という過去の出来事を踏まえた上で、現実を目を移すと、最近では『改憲』の動きがあります。私は為政者が『より普通の国にしたい』という思いに危機感を覚えます。

なぜなら『侵略のための戦争を永久に放棄する』という前提のもと、『侵略ではない戦いは自己防衛として正当化される』とも捉えられる内容で、言い換えれば『平和のために戦う普通の国になる』という二律背反とも思えるところに行こうとする危うさです。

世界では国家間の争いや、テロ行為などにより、多くの命が奪われているニュースが後を絶ちません。日本は唯一の原爆を体験した国として広く世界に原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを伝承し続けることが必要です。

式典では、被ばくされた方々が高齢化しており、年々その原体験をご自分の言葉で語れる人が減っているという話がありました。

実際にこの悲惨な体験をした人でしか伝えられない言葉や表現を、後世にも残すことができないでしょうか。

AR（拡張現実）VR（仮想現実）などの最新技術で日本に原爆が落とされたという過去を未来の人が追体験できたら、もっと真剣に平和について考え続けてくれる世の中ができるかもしれません。

将来を担う若い世代の人が、より大勢式典に参加し、改めて核兵器の脅威を知り、非戦の思いを強く持った人々が増えることを願います。

今回は、貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました。

## 広島「平和行事参加の旅」に参加して

40代 女性

私は広島に行ったことがなく、日本人として知らないといけないことを知らないままなのではという思いがあり、いつか広島の地に行ってみたいと思っていたところ、この旅の募集を見つけました。昨年、長男が小学3年生の時にマンガで原爆について知りました。過去のあまりにも悲惨な事実を親子で一緒に考える機会になるのではないかと思い、今回「平和行事参加の旅」に参加しました。

8月5日に広島へ行き、爆心地や平和記念公園内を周りました。その中で1番印象に残ったのは原爆資料館です。原爆で負った火傷や人がこげた写真はあまりに衝撃的で、目の前にしているものを理解するのに頭の整理が必要でした。原爆伝承者の方の講話では、外で作業していた娘が原爆に遭い、近くの学校に運ばれ「まだなん？」と母を待ちわびながら亡くなり、以後母は笑顔を失ったという話を聞きました。戦争中とはいえ、家族がいて、毎日の日課があり、普段の生活を送っていたところに、突然の原爆が各々の日常を奪い去りました。この非現実的な事実が現実にあったことと理解するのは容易ではありません。ショックで体に入らない感じがしました。

8月6日、平和祈念式に参列しました。広島県知事のあいさつでは、オバマ大統領が被爆者の日常にも言及したことを評価していました。原爆は14万人もの命を奪い、亡くなった方の家族や友人、被害を受けた方やその家族や友人にどれだけの痛みを与え各々の日常を奪ったかを思うと、このようなことが2度とあってはいけないことだとわかります。広島市長が各国の方に広島に来るよう促した理由がよくわかりました。

私は今回の旅で平和という言葉を意識しないで生活できていることがどれだけ

平和なことが認識できました。これからは過去のような惨事を起こさないよう、日常生活を普通に送れることに感謝し、平和を守り続けていくことの大切さを心に留めておこうと思います。大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

## 広島の旅

小学4年生 男児

8月5日から6日、広島に行きました。

原子ばくだんが落とされた場所ということは分かっていたので、ちょっとドキドキしました。原ばくは体に害のある放射線を出す強力なばくだんだと知っていましたが、それによって14万人もの人がぎせいになってしまったことを知りました。そんなにおそろしいことが日本で起こっていたとは思いませんでした。

原ばくし料館では、夏の日の朝、3000度から4000度の熱風がおそい、多くの人が一しゅんにして、大きなひがいにあったことが分かりました。想像もつかない状況の中で苦しんでいた人たちの様子がてんじされていて、これが原ばくのおそろしさなんだと体がかたまるようでした。

伝承者の方のこう話を聞きました。ひばく者の体験が絵日記で表されていて、それは防火水そうに飛びこみそのまま亡くなった人たちがえがかれていました。水は血でまっ赤にそまり、ハエがたかっているひさんさがよく分かりました。

今回広島の旅に参加して、原ばくのおそろしさや平和なふだんの生活のありがたさを強く感じました。広島で感じたことを大切に生きていきたいです。

## 「広島平和行事参加の旅」に参加して

70代 男性

八月五日・六日、小金井市が企画した「広島平和行事の旅」に市民十三名が小金井駅に六時二十分集合した。そして東京駅新幹線七時五十分発のぞみに乗車し、久しぶりに新幹線四時間の旅を楽しみながら広島に十一時四十分到着した。これから一泊二日の旅の始まりです。

二日間の予定は、初日の五日は原爆ドーム・原爆死没者慰霊碑・広島平和記念資料館等の見学。翌六日は朝から原爆死没者平和記念式典に参列、午後は自由行動、そして広島駅に集合して新幹線で帰路につき、小金井駅に十九時十五分到着、解散と言う強行スケジュールである。

一行は計画通り広島駅に到着、最初の見学先「原爆ドーム」へ向かった。

ここは当時「広島物産陳列館」として建てられ、全体がレンガ造りで上方は鉄骨で組み合わされてドーム状になっており、木造と違い強固な作りになっている。そのため原爆が落ちても外環は残ったといわれている。勿論ここで働いていた人達は全員死亡した。手を合わせ一礼して次なる見学先「平和記念資料館」へと向かった。

館内に入ると、まず、照明の暗さと冷房で、何か不思議な霊気を感じた。

そしてまず目に入ったのが、爆風と熱線を浴びて、助けを求めている姿の女子、子供の哀れな人形の情景である。そして心を重くしたのは焼け焦げて木炭化した人体が無数に横たわっている残酷非道な写真である。

一瞬の閃光によって十四万人の尊い命が失われたと思うと怒りを越えて、哀れみを感じずにはいられなかった。写真の御霊に両手を合わせ、「安らかにお眠りください」と祈り退室した。

次のコーナーにはB29爆撃機「エノラゲイ」が投下した原子爆弾「リトルボーイ」の実物大模型が展示されている。この小さな爆弾によって一瞬にして起こった破壊、惨劇、怒り憎しみ、悲しみ、多くの思いに苦しみながら死んでいった人々を私だけでなく見学した全ての人達が忘れることは出来ないでしょう。そして、次のコーナーでは、アメリカオバマ大統領が初めて慰霊碑に、二羽の折り鶴とともに献花している写真とその脇には大統領直筆による「核兵器のない世界を追求する勇気を…」の冊子が展示されている。オバマ大統領は多分犠牲者に心の内で謝罪しているのではないかと感じた。これを見て今までと違い重い雰囲気から開放された様な気持ちになったのがせめてもの救いだ。

翌、八月六日七時四十分平和記念式典に参列。安倍首相はじめ、広島市長、県知事、世界各国の要人が「核兵器廃絶」を訴え、献花した。

慰霊碑には原爆によって亡くなった多くの犠牲者の氏名を記入した原爆死没者名簿が納められている。

私たち十三名も「核兵器廃絶」と「恒久平和」を願い、献花した。

そして、二日間の全ての行事を終えて新幹線で広島を後にして、小金井駅に無事、十九時三十分到着し解散した。

現在、地球は気象の異常変化、環境の異常悪化に見舞われ、地球破壊が急速に進んできているように思われる。この状況が進んだら地球はどうなるだろうか？ 国同士が憎しみあっている時ではないと思う。今こそ人類全体が協力して英知を出し合いこの問題に取り組み、策を打たなければ地球は遠からず滅亡の道を歩んで行くと思います。

そして今、人類が早急に実施しなければならないことは「核兵器の廃絶」と「原発の稼働禁止」だと思います。核所有の国が核ボタンを押したら？ 原発がメルトダウンしたら？ と考えただけでゾッとする。私は「核兵器、原発」は絶対反

対です。

これからも事あるごとに「核兵器の廃絶」と「原発の禁止」を継続して訴えて  
いきたいと思っています。

最後にこのようなすばらしい企画を立てて頂いた小金井市と随行して下さっ  
た職員の方に感謝したいと思います。ありがとうございました。

## 「平和行事参加の旅」に参加して

60代 男性

広島への平和の旅は8月5日午前6時20分武蔵小金井駅集合、最後の集合者グループ（一家3名）で始まりました。一家での参加は初めて。

新幹線で広島に向かう車中で、数組の中学生集団と出会う。この子たちも平和集会に参加するのかなと思うとうれしくなりました。

広島駅に着き市電乗り場で待つその間、引率者の職員の方の気配りが目につき大変だと感じました。

最初に見えたのは原爆ドームの頭の方。ところが田極さんが「みんなこっちに来てください」連れられたのは、注意しなければ気が付かない爆心地の記念プレート。ささやかな小さな碑であった。

次に原爆ドーム。悲惨な状態のコンクリートと煉瓦のがれき、ただ修復状態がリアリティーを欠いてるような気がしました。

原爆の子の像を見たとき小学生のころ学校映写会の記憶がよみがえり、あの時千羽鶴を皆で折って送ったのを思い出しました。

平和記念資料館は、たくさんの方が詰めかけてロビーはいっぱいでした。また海外の人もたくさん見学されていました。写真展示は鬼気迫るものがあり悲惨さを感じました。展示品には悲惨さの状況があまり伝わってきませんでした。1個の原爆の破壊力と長期にわたる人体への影響の表現が弱いと感じました。私は、現実はまだもっと悲惨なものにとらえています。

国体の開催と重なり宿泊地が岩国のホテルになり6日朝5時30分出発。案内された式典会場の場所は前から4列目、平和宣言をする広島市長の顔が見えました。（職員さんごくろうさまでした）前後は各都道府県の中学生達でいっぱい。聞

くと動員らしいそれでもいいと思いました。式典が終わり献花の始まり。たくさん  
の人の献花、式典より長い時間をかけて献花をしました。

今回参加して、核廃絶、原発廃絶を進めねばならないと思いました。

## 「平和行事参加の旅」 広島に同行して

60代 女性

「原爆ドーム」は在った。整えられた平和記念公園は、明日の8月6日を前にこの地を訪れた人々でいっぱいだ。日本各地いや世界各地から、「再び原爆を繰り返すまい」の思いを胸に集っている。

「平和行事参加の旅」を引率してくださった市の担当の方々の案内で公園の慰霊碑、記念碑、記念像を訪ね歩く。公園には数多くのこれらの碑や像が設置されている。あの日命を奪われた人々が存在したせめてもの証を示すものだ。

公園の中央付近に広島平和記念資料館がある。あの日のほんの一部の痕跡を留めるものが展示されている。

壁一面を覆う原爆投下数日後に写された広島の拡大写真。その中に「原爆ドーム」があった。一面が瓦礫で埋め尽くされた街、広島。人間のみならず命あるものすべてが一瞬にして焼き尽くされ、破壊された街、広島。

6日の平和記念式典。8時15分、平和の鐘の音。今、71年前の私が消し去られた。あまたの私が消し去られた。一分間の黙とう。頭上には限りなき青空。式典は続く。

誰が、何故原爆を落とした。71年前日本はアメリカと戦争をしていた。東南アジアに戦争をしに行っていた。そして71年前の今日8月6日、アメリカによって広島に原爆が投下された。9日には長崎に。生き残った人々も原爆の放射能に蝕まれ、偏見と差別の中自らのみならず、子や孫まで苦しみ続けさせられている。今も。

平和記念公園に沿った川では夕方から精霊流しが行われるという。

生きている私は「原爆ドーム」を目に焼き付け公園を後にした。

「原爆いらない、核兵器いらない、戦争嫌だ」の声をあげていこう。無関心が再び広島、長崎を出現させるに違いないのだから。

## 広島、「平和行事参加」の旅について

30代 女性

今回の旅は母に誘われ参加しました。

広島といえば修学旅行の定番ですが、私の通っていた中学や高校では行き先が広島ではなかったので、日本人としてぜひ見ておきたいという気持ちでの参加でした。

一日目、現地に到着した時は既に日も高くとても暑かったのですが、広島駅から原爆ドーム前までの路面電車の情緒に癒されました。

間近で見た原爆ドームは想像よりもこじんまりとした建物に見えました。しかしその黒く焦げた小ぶりの建物の姿が、鉄骨がむき出しになるほどの原爆の威力を淡々とリアルに伝えて来るようでした。

資料館では原爆の仕組みや被害の規模、被爆の恐ろしさについて触れることができました。当時の様子を知る方々の誰もがまさに地獄絵図のようだったと表現されていることが特に印象深いです。

身体の傷や放射線の影響を免れたとしても心の傷は癒えず、いまだに十分な補償も被爆者認定も整わない現実と、『終戦』というすべてが終わったかのような言葉がそぐわない気がしました。

二日目の平和記念式典はまず（席の確保にも大変な苦勞をするほどの）人の多さに圧倒されました。TVでは一部分しか映らないのだということがよくわかりました。

そして昨年のおバマ大統領の訪問の影響でしょうか、非常に多くの外国人の方の姿を見かけた事も驚きました。

おバマ大統領の訪問には政治的な意図があると言われていますが、その事の是

非はともかく、原爆投下国の現職大統領の歴訪を通じて外国人の方にこの地に関心を持ってもらうことは非常に重要だと思います。

式典の最後に献花の列に並ぶ事は、この旅で一番大変だったかもしれません。

とても暑かったので並んでいる方々が熱中症にならずに本当によかったです。

やっと献花台の前に立てた時は、戦後70年間連綿と受け継がれてきた被爆者の方々の思いがより身に迫ってくるように感じました。そして、この先もずっとその気持ちをのちの世に残し続けていかねばなりません。

被爆の現実を直接伝えて下さる方が高齢化に伴い少なくなっていく事が心配です。

日本自らが戦争を起こし、その結果多くの被害を招いたのだという歴史の自覚を日本人が忘れる前に、ヒロシマの記憶を次の世代、そして世界に受け継いでいく必要があるのだと強く感じた旅でした。

## 「平和行事参加の旅」に参加して

60代 男性

この旅へ参加したいと思ったきっかけは三つあった。

一つは、昨年、観光目的で長崎県を訪れた際、長崎原爆資料館に立ち寄った時の衝撃を今でも忘れることができないことだった。日本人として生まれ育った自分が、原爆の悲惨さを認識できていなかった事を恥じると共に自身の生き方に自信を無くしてしまった。その意識を持ち続けるためにこの旅は自分にとって必要だった。

二つに、今年5月、現職の米国大統領、オバマ氏が広島を訪問したことだった。歴史的にも意味の大きかったこのタイミング、平和への時流を自身の生活で認識する大切さを実感していた。

三つに、他にある日本の世界遺産とは、内容が異なる遺産である原爆ドームを自身の五体に記憶したかった。

以上の意義をもってこの旅に参加させていただいた。

その旅は暑い一日から始まった。平和祈念式への参加は、人生初である。職員の方の尽力で、式典の席もよい場所を確保していただいた。

厳かに流れる時間。原爆が投下された8時15分。一瞬にして破壊されてしまった人命と広島の大地にどんな気持ちで接したらよいのかもわからずただひたすらに1分間の黙とうをさせていただいた。その間、鳴らされた平和の鐘の響きは、一生忘れることはない。

この旅に参加する直前、広島に在住したことのある知り合いからダイイン広島の話聞いた。広島の小学校では、今でも原爆投下のその時間にダイインを行うそうである。その行為の評価は、さておき、核兵器廃絶と世界平和に臨むその真

剣さに、私は、驚きを隠せなかった。式典の「平和への誓い」（こども代表）は、その思いもあって涙をながして聞いていた。

戦争に正義はない。世界平和が必要なことは大半の人々が認識していると思う。言い尽くされているが、それでも世界の核兵器は廃絶の方向には向かっていない。自分に何ができるか今は答えも出ていない。ただ、今言えることは、広島と長崎に足を運んで、原爆の悲惨さを認識してほしいと思う。小さな行為であるが、平和行事参加の旅で得た実感を、周りの知人に出来るだけ伝えていこうと思っている。有意義で思い出に残る今回の旅に参加させていただき感謝している。

## 平和行事参加の旅に参加して

80代 女性

終戦の時私は9才でした、北海道の田舎町で戦争の悲惨さとは無縁な時を過ごしてしまいました。テレビなど無い時代大人話からわずかに戦争の悲惨さを知る位で、何んと幸せな子供時代だったのかと思います。この度この平和行事参加の旅に参加してつくづく自分は幸せな子供時代だったと思います。大人になりいろいろと見聞するたびに日本人としてやはり広島には絶対行くべき所とずっと思っていました、なかなか実行出来ず80才を過ぎ今しかないに参加させていただきました。

誰でもが参加出来ない式典にも出席させていただき本当に感謝致しております。

テレビ新聞では今迄も原爆の悲惨さを知らされて来ましたが、実際に資料館を見、本当にびっくり、何んとむごいことだろうと涙が出ました。今はあんなにきれいな川その川に多く人達が入り亡くなったと思うと胸が痛みます。

その川を遊覧船でめぐりましたが申訳けない気持ちになりました。今の平和に感謝ですね。今回の旅はたしかに疲れましたが、とても良い思い出が出来心から喜んでおります。

本当に有り難う御座いました。

広島に泊まる事が出来ず今回は岩国に泊まることになり時間的にはきついことでしたが、これが幸いして錦帯橋の前のホテルに泊まり、夜はう飼の船に乗り一生に一度の経験をさせていただきました。御一緒した方々とも、とても楽しい時を越し仲良しになれ本当に良かったと思っております。

八十才を過ぎ皆さんに助けていただきながら本当に良い思い出の旅が出来ました。

市役所の御二人の方には本当に感謝です。

参加の皆様、市役所のお二人の方、

本当に有り難う御座いました。

## 平和行事参加の旅を終えて

50代 女性

前日までの仕事の疲れもあり早朝からの1泊2日の行程は多少辛いものがありました。

でも、この広島の旅は、私にとって改めてさまざまなことを考えるきっかけをつくってくれた尊い旅になりました。

まず、私をこの旅に誘ってくれた母に、そして大変な準備をシエスコートしてくださった市役所の担当の方々に、尊い旅に優しさと楽しさを加えてくださった参加者の皆様に感謝申し上げます。

そして何より、この旅で感じたことをこれからの生活にいかしていかなければいけないと強く思いました。

ちょうど帰京した8月6日の夜、テレビで広島原爆投下についての番組がありました。

私は今まで戦争の番組は、その悲惨さから目を背けずにはられませんでしたが。

でも今回広島を訪れ、私のなかの意識が何か変わったのだと思いました。

迷わずその番組を観ていました。番組では、なぜ原爆投下の地に広島が選ばれたのか等々、知らないことだらけで認識不足だったと思わずにはられませんでしたが。

慰霊式並びに平和祈念式には、日本人だけでなく海外の方も非常に多く参列されていて、核廃絶を願う方々の足許の一步だと強く感じました。

慰霊ということはまず歴史的事実から目をそらさずにちゃんと向き合うことか

ら始めなければいけないのだと思いました。

私も世界平和を祈り、まずは自分の出来るところから相手を思いやる優しさを  
忘れずに過ごしていきたいと思います。

有難うございました。